

## ■特集■ トピックスを歌う

# トピックスの歌の宝庫『金色の獅子』

黒岩剛仁

佐佐木幸綱が〈トピックス〉を詠んだ歌を探そうと、第一歌集の『群黎』から読み始めた。『群黎』では、七〇年安保時の歌や岸上大作、佐佐木信綱への挽歌など。第三歌集『夏の鏡』では、韓国の軍法会議において詩人金芝河に死刑が宣告された折の歌〈詩の向う側に屹立せる死、眼前のガラスを透し花を見ている〉など…。それらしい歌が全く見当たらない歌集もある。そんなのだ。四十代半ば、中年を迎えるまでの幸綱には、トピックスを歌った歌があまりないのである。

- まずは、やはり挽歌。
- ① 梅雨の晴れ間の竹のさみどり、少年の日に尊とかりし一日また一日
  - ② 恩人の高柳重信の死を伝うる夕刊、船長よ何処へ泳ぐ
  - ③ 打ち乱れ打ち乱れつつかにかくにわがたてまつる白菊の花
  - ④ わくらばに縁ありしを現身の冷えしみじみと通夜の酒飲む
  - ⑤ 風清き一日なりしか窓の辺に死者の著作を読み過ごしぬ
  - ⑥ 人死にて言葉残れる淋しさを言い淀みつづ講義終えにき
  - ⑦ 蚊の声を床に聞き居り淡くはかなく石原裕次郎は死ににけりという
  - ⑧ 長髪の澁澤龍彦氏も逝けり柳寂しき八月五日
  - ⑨ えんえんと歌う軍歌の思い出の澁澤さんや長き夕ぐれ
- 名前が詠み込まれていて明らかな歌もあるが、それぞれ①②が俳人の高柳重信、③④が「心の花」の先輩歌人石川一成、⑤⑥が詩人の鮎川信夫、⑦は石原裕次郎、⑧⑨がフランス文学者で小説家の澁澤龍彦への挽歌である。同時代を生きたに過ぎない（実際に会ったことがあるのかも知れないが）石原裕次郎から、付き合いのあった他ジャンルの作者たち、毎月の編集作業で親しく語り合っていた石川一成と、その想いの深淺には差があるわけだが、いずれも心に残る挽歌である。

変わったところでは、アイドル歌手岡田有希子の飛び降り自殺を詠んだ歌もある。

- ⑩ 少女歌手影長く曳き飛び下りぬハレー彗星近づく火曜

ハレー彗星が近づいていたことも含めて、〈トピックスの歌〉に相応しい。

社会的な事件を題材とした歌には、三井物産のマニラ支店長が誘拐されたとの報道を詠んだものもある。